



ニュースリリース：

ラオスの2校に奈良在住の販売員名を命名

2020. 7. 8

エルセラーン1%クラブ

ラオスに建設された2つの学校に今月、奈良県在住のエルセラーン化粧品（本社・大阪）の販売員の名前が付けられました。無償の学校建設支援事業でエルセラーングループが建設した学校は合わせて10カ国で合計187校となりました。

学校建設事業は、エルセラーン1%クラブ（資料メモ参照）が2008年から推し進めています。今回分を含めて、ネパール72校▽ラオス34校▽ベトナム25校▽カンボジア19校▽バングラデシュ17校▽ミャンマー8校▽スリランカ4校▽タンザニア4校▽インド2校▽アフガニスタン2校が建設されました。

今回、命名されたのはラオス南部プーバチアン村の同じ敷地内に建つビエンサイ小学校の新校舎（4教室）と、プーバチアン中学校の新校舎（4教室）で、「NPO法人 AEFA アジア教育友好協会」（本部・東京、谷川洋理事長）との共同事業となります。

ビエンサイ小学校（生徒数約270人）は、支援活動の中心となった奈良県大淀町の今村美智代さんにちなみ「今村小学校」と名付けられました。この村には低地ラオ族、クム族、ラーヴェン族、モン族、スアイ族といった多様な少数民族2,047人が暮らし、平均年収は1人当たり6万円です。村人たちがかつて竹で手作りした校舎は25年がたち、傷みがひどくて授業を受けるのが危険な状態でしたが、鉄筋コンクリート製の頑丈な建物に生まれ変わりました。

今村さんは「学校が決まり嬉しい。すごく感激しています」と話しています。

プーバチアン中学校は、支援活動の中心となった奈良市の大矢康子さんにちなんで「大矢中学校」と名付けられました。中学校（前期中等教育）では4学年で348人（2018～2019年）が学んでいます。中学校舎は15年前に村人がお金を持ち寄って資材を買い、自分たちでレンガを積んで建てたものでしたが、資金不足で工事が途中で止まったものをそのまま仮校舎として使っていたため柱や屋根が激しく傷み、授業を続けることが危険な状態でした。鉄筋コンクリート製の頑丈な建物に生まれ変わりました。

大矢さんは「発表が待ち遠しかった。新型コロナで開校式は延びますが、楽しむ時間が長くなったと考えてメンバーの方と楽しみを分かち合いたい」と話しています。

ラオスでは新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月から国内の全学校を閉鎖していましたが、新規感染者が一定期間確認されなかったため5月18日から順次、授業を再開し、6月2日からは全校で授業をおこなっています。

写真はデータで送信可能です。

2枚目に資料メモ

この情報のお問い合わせ・取材は下記までお願いいたします。

エルセラーン化粧品広報部 辻野

電話06-6367-0705

Email: [tsujino@elsereine.jp](mailto:tsujino@elsereine.jp)

## 資料メモ

**エルセラーン1%クラブ** 自然派化粧品を販売するエルセラーン化粧品株式会社(本社・大阪市、糸谷沙恵子社長)がボランティア事業をおこなうため、販売代理店の方たちと1983年に設立した任意団体。販売代理店の利益の一部と社員らの寄付が原資。学校建設事業のほかに、震災や豪雨の被災者支援、歳末助け合いへの寄付などのボランティア活動を続けています。

**NPO 法人 AEFA アジア教育友好協会** 2004年に設立。主としてインドシナ半島の極貧地域に暮らす少数民族の子どもたちを対象に、学校建設事業と国際交流事業の2つを推進しています。小学校を建設したり日本の学校との交流を支援して、健康で希望を持って成長できる教育環境を作る活動を行っています。

**ラオスの教育事情** 義務教育である初等教育(小学校)は、就学年齢に特段の定めがなく、概ね6歳で小学校の第1学年に入学しています。中学校、高等学校への入学率は、地方では未だ低い水準にありますが、首都であるビエンチャン特別市をはじめとする都市部では、教育熱が高まっており、中学校、高校への入学率も高く、更に高等教育(大学、職業訓練専門学校等)へ進む者も多くなっています。

ラオスにおける問題として、政府の教育予算が極めて少ないという点が挙げられます。このため、教科書の不足、適切な校舎の不足、教員の能力不足、不適切な教員配置、遠隔地の学校における教育の質の低さ、教育行政能力の不足等の状況が生じています。また、初等教育においては、貧困、通学困難、保護者の学校教育に対する意識の低さに加え、少数民族の児童はラオス語を生活言語としないため、授業を受けるのが困難等の理由により、入学後に退学する児童が多いことも問題となっています。(日本外務省のHPより抜粋)

### 学校建設地域の識字率 (出典: UNESCO UIS. Stat)

国名	若年層 (15~24歳)		成人層 (25~64歳)		高齢者層 (65歳以上)	
	比率 (%)	調査年	比率 (%)	調査年	比率 (%)	調査年
アフガニスタン	65.4	2018	30.5	2018	13.3	2018
バングラデシュ	93.3	2018	69.8	2018	40.1	2018
カンボジア	92.2	2015	77.9	2015	53.1	2015
インド	91.7	2018	71.6	2018	45.4	2018
ラオス	92.5	2015	83.5	2015	58.6	2015
ミャンマー	84.8	2016	75.3	2016	58.2	2016
ネパール	92.4	2018	60.7	2018	23.6	2018
スリランカ	98.8	2018	92.5	2018	79.1	2018
ベトナム	98.4	2018	95.3	2018	85.8	2018
タンザニア	85.8	2015	77.9	2015	43.5	2015
世界平均	91.7	2018	86.3	2018	76.28	2018

以上